

平成 30 年 5 月 13 日実施

「裁判所総合職」
(家庭裁判所調査官補)

心理学分野

【解答例】

平成 30 年度 家裁調査官補一次専門試験 語句説明解答例

心理学概論

オペラント条件付けにおける強化スケジュールについて、400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例：

強化スケジュールとは、オペラント条件づけにおける反応に対する強化の与え方の規則をいい、4条件の基本スケジュールに分けられる。すなわち、強化子を与えるタイミングを、反応回数に基づく(比率強化)か、時間間隔に基づく(間隔強化)かの 2 条件、強化子を規則的に与える(固定)か、不規則に与える(変動)かの 2 条件の組合せで、固定比率強化(FR)、変動比率強化(VR)、固定間隔強化(FI)、変動間隔強化(VI)の 4 条件である。

これらの強化スケジュールによって、ヒトや動物の行動がどのように形成、維持されるかが説明され、また統制される。一般に、固定スケジュールよりも、変動スケジュールの方が消去抵抗が高く、特に VR は高い反応頻度が見られる。日常の例としては、FR は出来高払いの仕事、VR はギャンブル、FI はバスを待つ行動、VI は郵便受けを確認する行動、などが該当するとされる。(382字)

注：「オペラント条件 付け」は、問題冊子のママの表記である。学習を専門とする学者であれば、通常、必ず「オペラント条件づけ」と表記する。さておき、本テーマは講義でかなり丁寧に説明したところである。択一問題では定番のサービス問題としても知られるテーマ。講義をきちんと復習していた人であれば楽勝であろう。またかつての家裁において同テーマが出題済みでもある。「増補改訂 試験にでる心理学 一般心理学編」に解答例がある。

臨床心理学

生物－心理－社会モデルについて、400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例：

「生物－心理－社会モデル」とは、人間を、生物学、心理学、社会学の 3 つの観点から総合的に見ようとする考え方である。

臨床心理学においては、問題の理解、アセスメント、介入といったそれぞれの分野において、これら 3 つの観点からのアプローチが重要視されている。例えば、ある個人の心理的問題に対して、生物的観点からは、医師や医療系のスタッフが、遺伝や神経系の問題に検討、対応する。心理学的観点からは、臨床心理士などの心理学の専門職が、認知、感情などの問題を検討、対応する。そして社会学的観点からは、社会福祉士などの福祉系の専門職が、家族や地域、生活環境、経済環境や文化の違いなどの問題を検討、対応する。

このモデルにおいて肝要な点は、これら 3 つの領域の専門職が、それぞれに個別に対応するのではなく、サポート・ネットワークを構築して、連携しながら問題の理解、アセスメント、介入にあたっていくことである。(392 字)

注： 予想していなかったところから出題されたが、本問のテーマは臨床心理学における重要な基本概念である。

社会心理学

社会的促進について、400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例：

他者の単なる存在が、課題の遂行を促進することを社会的促進という。19 世紀にトリプレットによって報告され、20 世紀に入ってオルポートが社会的促進と名づけた。その後、同じ条件でも、遂行成績が阻害される現象が生じることが指摘され、それは社会的抑制と呼ばれた。

他者の存在が、なぜある場合は社会的促進となり、ある場合は社会的抑制となるかについて、統一的に説明したのはザイアンスの動因理論であった。彼は、他者の単なる存在が、遂行者の動因水準を上昇させ、それがその課題遂行において優勢な反応を生起させると考えた。つまり、課題が単純ないし習熟したものであれば遂行は促進され、課題が複雑ないし未習熟であれば遂行は抑制されるということである。ザイアンスの理論では、他者の存在がなぜ動因水準を高めるかについて説明がなかったが、今日では、評価懸念や注意の分散、あるいは自己呈示などを通じて動因水準が高まると説明されている。(399 字)

注：社会的促進は、講義でかなり丁寧に説明したところである。理論的な説明ばかりで埋めたが、具体例を入れるなどして説明するのもよいだろう。なお、かつての家裁においてこのテーマは頻出であった。「増補改訂 試験にでる心理学 社会心理学編」にも解答例がある。

教育心理学

「心の理論」の発達について、その測定方法にも触れながら、400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例：

人は一般に、心という直接観察できないものを想定し、それをもとに自己や他者の行動を予測・説明するが、これを心の理論と呼ぶ。

心の理論の発達の研究は、主として誤信念課題を用いて行われてきた。誤信念課題とは、「人物 A が対象 O を場所 X にしまってその場を離れた間に、人物 B が対象 O を場所 Y に移動する」という物語を提示し、人物 A がどこに対象 O がいるかと思っているかを尋ねるものである。これは、自己と他者の心が区別できており、他者の心の状態に気づけるようになれば正答できる課題である。答えによって、心の理論が獲得できているか否かが推定できる。これらの研究によれば、心の理論の成立は 4 歳以降であるといわれる。しかしその後、「スイカの引っ越し課題」によって、15 カ月の乳児でも、誤信念について何らかの気づきがあることが示されており、今日では、心の理論は生後の早い段階から徐々に獲得されていくものと考えられている。(395 字)

注：今年 2 月の専門記述対策で、東京都の過去問として「心の理論」を扱った。復習をきちんとしていた人は楽勝だったであろう。

(文責：高橋美保)